

第 1 期における個別施設のあり方 (案) の凡例

1. ソフト面の評価

評価項目	内 容
公益性	設置目的の意義が低下していないか 利用実態が、設置目的に即しているか 提供するサービス・事業が、設置目的に即しているか
法令の定め	法令の定め ◎：法令で設置が義務付けられている ○：法令に定められているが設置は任意
利用者数の推移	過去 3 年間の利用者数の推移 ↑：3 年連続増加 ↓：3 年連続減少 →：横ばい等
利用圏域	市域：市域全体が対象 学区：単独または複数学区が対象 自治会：自治会または特定地区が対象
重複施設の有無	利用圏域内における同種・類似する施設の有無 (民間施設を含む)
長期的な需要見込み	長期的な (約 40 年後の) 利用者数の見込み ↑：増加 ↓：減少 →：横ばい等

2. ハード面の評価

評価項目	内 容
経年度	目標耐用年数に対する築年数 [築年数] ÷ [目標耐用年数]
耐震性	○：新耐震基準 (S56 年以降) の建築 または耐震基準を満たしているもの 未診断：S56 年以前の建築で耐震診断を行っていないもの
施設の不具合	施設の維持運営に影響のあるハード面の不具合の有無 例) 雨漏り、空調設備の故障など
躯体の老朽化	躯体部分の老朽化により大規模修繕が必要と見込まれるもの 例) 屋根・外壁の老朽化など
設備の老朽化	設備部分の老朽化により大規模修繕や更新が必要と見込まれるもの 例) 受電設備、空調設備など
既存不適格等	法令改正等により既存不適格となっているもの 例) エレベータの耐震性能、消防設備など
性能面の課題	利用ニーズの変化等により改修が必要と見込まれるもの 例) バリアフリーなど